



第87号

令和7年6月1日発行

広島県立
総合リハビリテーションセンター
あけぼの
〒739-0036
東広島市西条町田口295-3
TEL (082) 425-1455

地球の真理を知ること魅せられ、地動説を探求することに人生や命を懸ける人間たちを描いたテレビアニメの「チ。地球の運動について」を毎週楽しみに視ている。古くはフランス革命を題材にした「ベルサイユのばら」、近年では古代中国の始皇帝による中華統一の物語「キングダム」など、他国の歴史にまつわる事を漫画とするのも日本人は得意なのかもしれない。昨年放送されていたようで、私が視ているのは再放送であり、この原稿を書いている時は第二章であるが、第一章の三つの話は、登場人物の言葉に重みがあり、深く考えさせられるものだった。第一章を視た後、高校の物理の授業で、地球の自転を証明する方法を教えてもらったことを四十数年ぶりに

思い出した。

その方はA先生と言い、ボサボサの髪で、いつもヨレヨレの背広を着ている個性的な風貌の方であった。性格は温厚で決して声を荒げることのない方で、怒られないことをいいことに生徒の中には、A先生に上から目線のような態度の者もいた。数学の授業で、ある問題が誰も解けなかった時、「こんな問題を解けない君たちの中に、A先生に失礼な態度をしている者がいる。言っておくがA先生に数学で解けない問題はない。我々数学者の教師は、解らない問題をA先生に教えてもらっている。」と言われたことに驚いた記憶がある。物理に関心のない生徒が多い(物理の先生には申し訳ないが、物理の授業は面白くなかった)中、A先

生は何か授業に関心を持ってもらおうと、身近な事に物理の法則が関係していることを熱心に話されていた。物理の授業内容はやや面白くないが、先に述べた地球の自転を証明する「フーコーの振り子」やアインシュタインの特殊相対性理論の中で示された有名な公式「 $E=mc^2$ 」が無差別殺戮兵器である原子爆弾のアイデアとなってしまうことを話されていたことは覚えていて、A先生の熱意や誠実な人柄を回想することで、清々しい気分となった。

A先生はどうされているのだろう?ご存命だろうか?と考えていると、同級生やアルバイトで一緒だった人、よく遊んだ人達のことを思い出した。彼らは今、何をしているのだろうか?何処に住んでいるのか?家族はいるのだろうか?という事が気になった。かつて一緒に過ごした時も終わり、その後の長い時間の中での彼らの人生の過ごし方を思うことは、過去

の思い出や体験に対する懐かしさや郷愁も入り混じり何ともいえない気持ちとなった。

あけぼのにも、毎年、数名の退所者がいる。退所先は、他の施設(旧身体障害者療護施設や特別養護老人ホーム他)やグループホーム、自宅復帰等である。退所後に高次脳機能センターの外来診療に来た際に、あけぼのに寄ってくださいる元利用者の方の近況は分かるが、多くはアフターフォローの終了とともに、把握することが難しくなる。職員の中には、休日を利用して、施設やグループホーム等に担当だった利用者を訪ねている者がいる。行く末をできる限り見届け続けようとし、真理を探究するかのよう、退所者を訪ね続ける職員の姿勢には、頭が下がるばかりである。

ところで、A先生の物理の授業を受けていた私と、この原稿を書いている私は、時は異にしてどうかというと、相変わらず、自転する地球の上で机に向かっていたのであった。



機能訓練グループ



PTやOT、STの助言の下で、屋外移動訓練や階段昇降、平行棒内歩行、エアロバイクなどの身体リハや、コミュニケーション訓練を行っています。また、外出訓練など個々のニーズに応じた訓練を行っています。



生活訓練グループ



高次脳機能障害のある方に対して、コミュニケーション能力や対人技能の向上、物事を計画的に進める力の向上、記憶や注意機能などの代償手段(メモリーノートやスマートフォンなど)の活用、健康的な生活習慣の獲得などを目標とした訓練を行っています。先日は外出計画の立案とプレゼンテーションを行いました。個々の課題と向き合いながら、行動をより良い方向に変えていくことで、今後の地域での生活をより自立的に、より円滑に送ることができるよう支援しています。



生活介護

楽器演奏

今年度から新たに取り入れた活動です。一人一つずつ楽器を手にして、懐かしい曲や、流行りの曲を全員でリズムに合わせて演奏します。皆さん大変楽しんで参加されています。今後も利用者のリクエスト曲を中心に取り入れ、利用者が主体的に楽しめる活動になっていくよう工夫していきます。



個別トレーニング

身体の機能を維持するために、PTの助言の下で全ての利用者に対して個別メニューを用意して、毎日必ず取り組んでいます。あけぼののPT室や、隣のスポーツ交流センターおいづるでトレーニングしています。



通所グループ

地域で生活されている方が、JR やバス、自家用車などで来所しています。就労や生活改善などの目標に向けて、実践的な訓練（体力づくり、パソコン講習、電話対応、軽作業、荷物の運搬など）を行っています。



栄養を考えたお弁当を用意するのも、健康的な生活への取組ですね！

利用者の動き

(令和7年2月1日～令和7年5月31日)

《新規利用者》 2名 (就労移行支援 1, 生活訓練 1) (通所 1, 入所 1)

【利用経路】 高次脳機能センター2 (外来 1, 入院 1)

《利用終了者》 5名 (生活訓練 3, 生活介護 2) (通所 2, 入所 3)

【進路先】 日中活動：一般就労 1, 職業能力開発校 1, 生活介護 1, 特養 1, 特になし 1

生活の場：自宅 2, グループホーム 1, 障害者支援施設 1, 特別養護老人ホーム 1

利用状況 令和7年6月1日現在

	生活訓練 (定員 24)	就労移行支援 (定員 6)	生活介護 (定員 30)	施設入所支援 (定員 40)
在籍数	15	1	14	26



利用のご相談は
随時受け付けて
います。

題字紹介

今回は、利用者の小林悦二さんに「曙光」の二文字を書いていただきました。素敵な笑顔で引き受けていただき、一筆一筆気持ちを入れて書いていただきました。書き終えた後のホッとしたお顔も印象的でした。

編集後記

初夏の風が心地よい季節となりました。風に乗ってやってくる田んぼの香りや、蛙の鳴き声が聞こえてくると懐かしい気持ちになります。

あけぼのは社会復帰を目指す施設として苦しいことにも取り組むよう支援することがありますが、今年の夏は、のんびりと涼みながら、懐かしく楽しかった昔の記憶を思い起こすような時間も取り入れたいと考えています。

皆様も無理をなさらずお健やかに過ごしてください。